# 講義前半　労働組合運動の歴史

## Ⅰ　ギルトと初期労働組合

▸労働組合の考古学の必要性＜なぜ中世ギルドからか＞

①労働組合とは何か

◇労使自治での決定…労働組合は『市民社会』が闘いの舞台

国家の権力が労働者の働き方を一元的に決定しているのではない。

②日本における伝統欠如：企業別労働組合

ギルド→職人組合→職業別組合→産業別組合

「企業の枠を超えて連帯感を強固にもつ『同職社会』」を基盤にした『労働社会』が歴史的に形成されなかったことが、日本の労働組合が職能別や産業別組合を選ぼうとしなかった原因である」（二村一夫「戦後社会の起点における労働組合運動」『シリーズ 日本近現代史 4』岩波書店、1994 年）。

### *1．ギルドの世界*

▸ギルド（ツンフト）の成立

イタリア：10 、11 世紀／フランス：12 世紀／イギリス・ドイツ：12 、13 世紀

**（1）徒弟制**

技能上、身分上の階梯

親方（master）、職人（journeyman）、徒弟（apprentice）

◇徒弟期間はドイツではふつう４年、フランスでは６～８年、イギリスでは７年。

**（2）職人から親方へ**

遍歴：「どこへ行っても職人たちが好意的に世話をしてくれ、ツンフト会館に泊まって、やがて新しい親方のもとで仕事とパンにありつくことができたからである」。

### *2．ギルドの原理＝「対外的独占」*

──→　労働組合の「集合取引」

①独占＝競争規制の前提

ある職業のギルドが、その地域の営業をすべて独占しているという状況。

（ギルドの構成員でなければ、その職業に就くことができない）

②職業の細分化…ジョブの源流

・鋤鍛冶は鋤をつくることに、鎌鍛冶は鎌をつくりことに限定。刀鍛冶は刀を鍛造することが仕事、刀剣研ぎ師は刀を研いで使えるようにするのが仕事だった。仕立屋では、ズボン縫い職人はマント製造職人とは違ったギルドであり、パン屋では、菓子職人とパン焼き職人とは別であった

▸人間の名前

ミューラー（粉屋）、シュミート（鍛冶屋）、シュナイダー（仕立屋）、ベッカー（パン屋）、

### *3．ギルドの原理＝「対内的平等」*

★競争を規制することで生活は安定する原理（自営業者…職人…労働者）

日本における平等意識の欠如の源流　⇔　要求実現／賃上げ

①競争規制の原理＝平等の基準の設定

都市というある限られた市場のなかで、仲間みんなが、誰ひとりも没落せずに成り立っていくにはどうすればよいか。ほっておけば、屈強でいくらでも働ける強者や財力のある者が共同体を支配することになるだろう。そうならないようにするには、自由な競争によって彼らがのし上がることができないようにすればよい。その競争を排除するにはどうすればよいか。

それは仕事をめぐる条件をみんな平等にすれば可能になる。ギルドは、仲間同士の競争を排除するために、平等を貫き、そのことによって労働と生活の安定をはかったのである。

②競争規制の方法

自律的に守ること──→　自律的結束

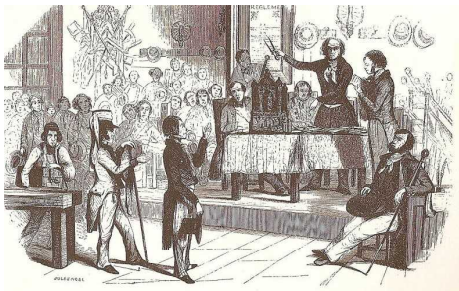
②規制の内容

◇生産手段と労働コスト、販売価格

◇労働条件＝規約には、「日の出から日の入りまで以上に長く」働くことや「夜間に蝋燭の

灯で」仕事をすることを厳しく禁止する規定、あるいはキリスト教ともかかわることではあるが、「日曜と祭日」、「正午の鐘が鳴ったあとの土曜」の就業禁止の項目がみられた。

## *4．ギルドの相互扶助・親睦の機能*



「仲間団体とは何よりもまず飲食を共にし、共に歌う団体でなければならなかった」（阿部、1986、109 ～ 127 頁）。仲間（コンパニヨン）とは共に（コン）にパンを食べる者たち。

## *5．中世市民社会とギルド*

### （1）自由都市（自治都市）

「中世の都市はまわりを城壁でかこみ、外の世界と出入りするには、いくつかの門をくぐらなければならなかった。都市に入る門の前には絞首台があった。つるされた死体が放置され風に揺れていた。旅人は驚ろいたに違いない。だが、都市に住む市民にとってこの絞首台は誇りだった。裁判権含む自治を、都市の市民みずからが有しているという自負があったからである」。

**都市の誕生と自治**

西ヨーロッパ中世の都市は、ローマ帝国時代の都市を引きついだものや定期市が成長したもののほか、国王・諸侯らの領主の城や修道院などに隣接する交通の便のよい場所に生まれた。都市に住む大商人は、遠隔地交易に従事し、相互扶助と経済的利益をまもるために**ギルド**（商人ギルド）とよばれる団体を結成した。やがて彼らは、領主の支配から自立する運動（**コミューン運動**）をおこし、自治権を獲得していった。なかでも、ドイツの有力都市はおおはばな自治を皇帝から認められて、**自由都市**や**帝国都市**ともよばれ、諸侯に対抗できる力さえもった。これらの都市は、獲得した権利を諸侯からまもるために、都市同盟をむすんだ。バルト海沿岸の港市リューベックを盟主とする**ハンザ同盟**①には数十の都市が加盟して繁栄をほこり、スイスや北イタリアの主要都市は周辺の農村を支配する強力な都市国家となった。また、イギリスやフランスの都市は自治権が弱く、国王の保護をうけて発展した。

**中世の都市**　ドイツ南部の町ネルトリンゲンは、13世紀に皇帝直属の自由都市となった。町は、直径 800 m ほどの壁に囲まれ、教会を中心につくられた。

**都市の変容**

都市では、手工業者や小商人らが、商人ギルドにならって職種別の**同職ギルド**（**ツンフト**）を組織し、構成員以外の者の営業を禁止し、労働時間や価格などを統制しながら、営業の独占をはかった。同職ギルドには**親方**だけが参加でき、親方は**徒弟**を養い、**職人**をやとって仕事に従事した。

14 世紀以降になると、彼らは、

大商人らが独占する市政への参加をもとめて闘争（**ツンフト闘争**）し、西南ドイツやスイスの諸都市では、市政に参加できるようになった。しかし、手工業者らは無給の政治活動に常時たずさわることができなかったため、彼らがあつかう原料や製品の購入・販売を手がける商人が同職ギルドを牛耳るようになった。さらに 15 世紀以降、競争がはげしくなるにつれて、同職ギルドは閉鎖性を強めたため、職人が親方になる道がせばめられるようになった②。その後、同職ギルドはますます閉鎖性を強めて特権化し、生産をさまたげるようになり、中世都市の活力を失わせていった。その一方で、フィレンツェの**メディチ家**やアウクスブルクの**フッガー家**のように、東方貿易の重要な商品である毛織物や銀などをあつかってばくだいな利益を上げて大富豪となり、ルネサンス文化の保護者となったり、教皇や皇帝を動かすほどの力をもつ者もあらわれた。（→ p.140）

**中世都市の商店**　ここには、靴を売る職人、宝石商、金銀製の容器を売る商人の姿がえがかれている。15 世紀の写本のさし絵。

### （2）日本におけるギルドと市民社会の不在――自立なくして自律なし

◇領主の一元的な支配＝職業団体が自治的な決めることは不可能

◇圧殺の歴史

日本には自由都市が存在することはなかった。堺や博多に自治的な都市が一時期生まれたが、戦国時代をつうじて封建領主に圧殺された。また山城国一揆や加賀の一揆は、城主を追い払って百姓や町民が支配する自治の国をつくった。加賀の場合には百年にわたってその一揆の権力が続いたが、それも結局は押しつぶされてしまった。

◇伝統欠如と変革可能性

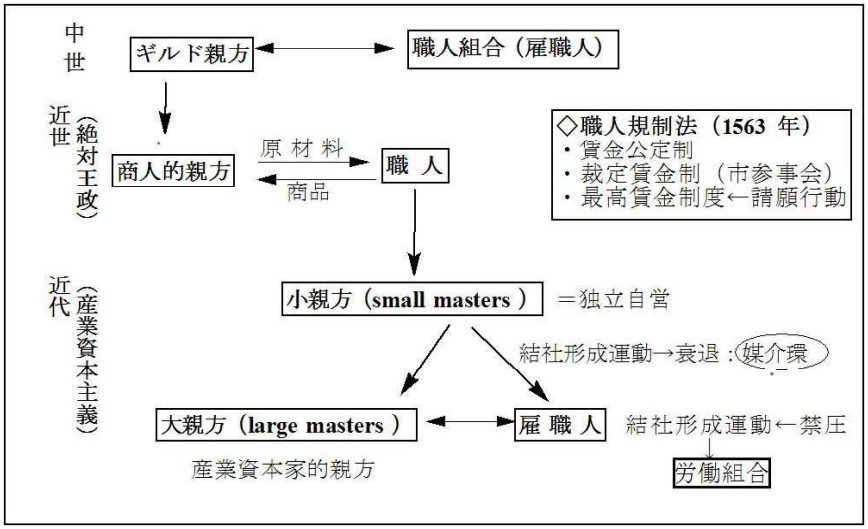
日本の民衆は負の遺産を抱えながらもつねにＹ字形の岐路に立たされてきた。幕末維新、自由民権運動、大正デモクラシー、戦後の敗戦と改革というように。しかしそのつど、競争規制の社会システムを構築することはできなかった。そして現在、日本型雇用システムが崩壊しつつあるなか、新しい岐路が目の前に現れてきている。そう考えるべきだろう。

### *6．初期労働組合の形成*

労働組合の直接的な起源＝資本主義形成期における雇職人（賃金労働者）

「賃金労働者階級は秘密の結社をつくらざるをえなくなり、一九世紀になるまで、その薄暗がりの中から姿を現すことはなかった」。

◇この「薄暗がり」が中世からつづいた歴史の流れの終点となる。「この時点で、変容したギルドの最後の段階と、労働組合の最初期の段階とが、接し合い混じり合っている」（アンウィン、一九八〇）。ここから近代の労働組合運動の歴史は始まる。




## Ⅱ　職業別労働組合――労働組合の確立

①産業革命→労働者の絶望的な反逆、暴動、打ち壊し、荒々しい運動

② 19 世紀後半→労働組合は資本主義社会のなかで不動のものとして確立

③その担い手→最も貧しい虐げられた労働者ではなかった。

高い熟練をもち比較的に恵まれた熟練労働者

――→熟練労働者の狭い労働市場＝規制しやすかったから。

### *1．「合同機械工組合（1851 年）*

（1）担い手

「機械工・工作機械工・鍛冶工・工場大工・鋳型工合同組合」

溶かした金属で形をつくる鋳型工（いがた）・鋳鉄工、金属を打って形をつくる鍛造工（たんぞう）・鍛冶工、工作機械を操作する旋盤工・削盤工、製品を完成させる組立工・仕上工など

（2）クラフト生産と間接的労務管理

◇大量生産方式がまだ登場していない時代の生産の方式　←　ギルド生産

クラフト生産の特徴

1．注文生産　≠　見込み生産

顧客から注文を受けてから経営者は生産にとりかかる。

2．生産過程の親方的な熟練労働者（組合員）の支配

生産は経営者ではなく、一切が親方的な熟練労働者にゆだねられていた。

3．間接的労務管理

経営者ではなく、熟練労働者が他の労働者を指揮・監督

4．「構想と実行の一致」

クラフト生産＝労働者が労働過程における意志決定権を

◇「構想」：どのような物をつくるかを事前に自分の頭で考えること

◇「実行」：実際の労働として「実行」すること

――→「構想と実行の分離」

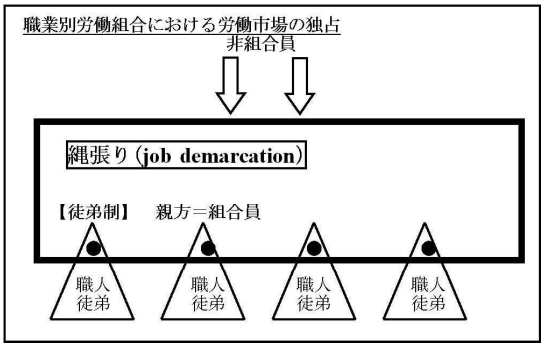
世紀転換期から大量生産…人類史のほんの一時期。

（3）組合員資格＝クラフツマン

◇徒弟制度の頂点にいる親方的な熟練労働者＝「クラフツ・マン」（crafes man）

◇職業別労働組合の組合員の資格＝徒弟制をへて「クラフト・スキル」を獲得した「クラフツ・マン」だけに制限
◇排他的な労働組合
・この「排他性」にこそクラフト・ユニオンの強さ
・排他性を基盤にして職業別組合の組合機能が展開　→　労働組合を確立

1862 年のロンドン万国博覧会に行った合同機械工組合の組合員




## *２．職業別労働組合の組合政策*

### （１）職業別組合の労働市場政策

①職業の「縄張り」（job demarcation）の設定

**１．労働市場のユニオンによる独占**

◇「縄張り」＝ギルドの「対外的独占」と同じ精神
◇仕事の独占
・レンガ積工：仕事はすべて自分たちユニオンの組合員でなければならないとする
・非組合員／徒弟制度をへない熟練労働者・「不法労働者」／不熟練労働者
・組合員は一緒に仕事をすることを拒否→雇い主＝その職域を尊重

**２．労働組合の「職業への権利」（right to trade）**

特定の職業別組合がその職域の仕事をする権利を主張すること。

◇「縄張り争い」（demarcation dispute ）―曖昧な境界
＊二インチ半のパイプ
・鉛管工組合＝直径二インチ半以下　VS　機械工組合の仕上工＝二インチ以上
・二インチ半のパイプ――長期のストライキ

②労働力の供給制限による労働条件の向上

**１．徒弟制度による熟練労働力を制限**

徒弟の数を制限し、徒弟期間を厳守　→　供給制限

**２．労働の制限：労働者が働きすぎない**

◇「標準労働日」（normal day）の設定＝長時間労働・残業の規制
→　雇用機会の確保（他の労働者の雇用機会を奪わない）

③労働力の地域間の調整

労働力が過剰な地域から不足している地域へ流動させる政策

◇「欠員簿」制度　（"vacnt book"system）
各支部の域でその職業の欠員（求人）がある場合には直ちに本部に通知する義務
◇失業手当
失業手当を払い、他の地方に移っていくための費用（遍歴は終了）
◇海外に移住させるための移民手当（アメリカの「旧移民）

職業別組合の労働市場政策は、労働条件は労働市場の需要と供給のバランスで決まるという考えから、その供給を制限するという方法をとった。それを、徒弟制や標準労働日、労働力移動など労働組合を決めたことを組合員が守ることで実現させたのである。

### （２）職業別組合の賃金政策

①協定賃金（union rate）政策

◇「協定」：労使間の交渉による協定ではなく、組合のなかの仲間同士が守るべき協定
協定賃金より安いところでは働かない。
◇職場離脱
初期労働組合：ユニオンの組合員は雇い主がその協定賃金を認めなければ、そこの仕事場から離れてしまう。自発的に就労を拒否し離職＝クラフト・ユニオンのストライキ

②「標準賃金率」（standard rate ）

その職業で働く者の誰もが支払われるべき標準的な賃金。最下限でも最高額でもない

③同一労働同一賃金の源流

職業別労働組合の時代の「同一労働」＝「同一職業」

「同一賃金」＝「標準賃金率」

同じ職業で、一定の腕前を持った熟練労働者の賃金は、誰に雇われていようと、また労働者がどのような属性をもっていようと、同じ賃金が支払われるべきだ。これが職業別組合の「同一職業同一賃金」の原則

④一国レベルの「一職種一賃金率」──→全国的職種別賃金

**（３）職業別組合の相互扶助政策**

①共済制度（合同機械工組合）

１．疾病手当：病気：毎週支給

就労不能：事故や失明、視力障害、脳卒中、パーキンソン病など：一括支払

２．年金制度：一八年間組合員であった五五歳以上の者には終身年金

・組合員とその妻が死亡：埋葬手当

②賃金・労働市場政策と結合している救済制度

１．失業手当：失業している組合員←標準賃金より低い賃金で働くことを禁止

──→そのかわりに失業手当てを支給

***３．熟練労働者の職業別組合によって労働組合は確立***

◇何故、比較的恵まれた熟練労働者のところから労働組合は確立したのか。

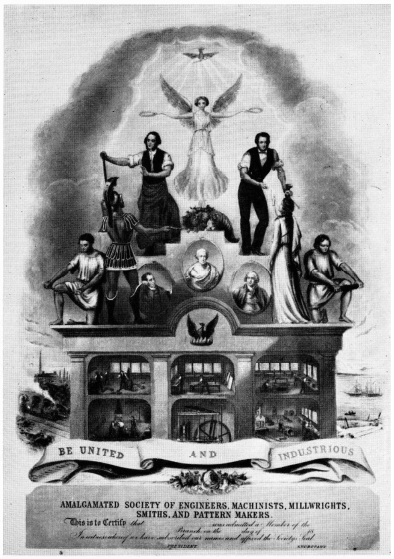
──→高い熟練職種の労働力からなる狭い労働市場＝労働組合が独占・統制しやすい

労働者相互の競争を規制することが最もやりやすい

◇職業別組合の組合員像

合同機械工組合の組合員はフロックコートのりっぱな洋服を着て、胸に大きな鎖時計をつけ、山高帽をかぶっていた。職業別組合の組合員は、貧しい労働者一般から抜けだし、当時、労働貴族と呼ばれていた。しかし、それは、いち早く労働組合を確立することができたことによるものだ。

クラフト・ユニオンの組合員は組合員章を額に入れて飾っていた。その組合員章は自分たちの職業上の地位と生活が労働組合によって守られているその誇りと安心を象徴するものだったに違いない。職業別組合の組合機能が、発展。




A Mid-Victorian Union Emblem
The membership certificate of the Amalgamated Society of Engineers (founded 1851)

合同機械工組合の組合員証

***４．労働組合とは何か──労働組合の根源的機能***

## Ⅲ　一般労働組合──労働組合の形態転換

＊現代日本における労働組合運動の課題

企業別労働組合の形態転換→全階層の労働者の労働組合：19 世紀末のイギリスとの類似性

──→　①貧困→②活動家（ユニオニスト）→③外部構築（業種別職種別ユニオン）

***１ 労働者の貧困──貧困観の旋回***

①貧困調査

「世界の工場」→大不況

社会調査『ロンドンの人々の生活と労働』（一九〇三年完）：チャールズ・ブース

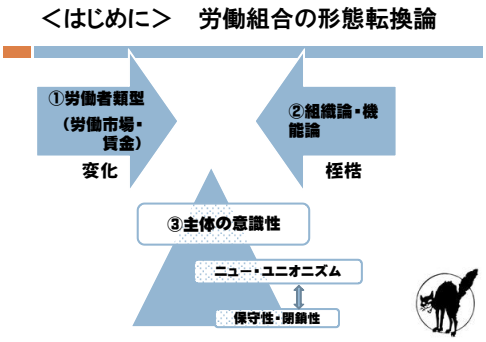
──→イースト・エンドの貧困：ロンドン東部の労働者のスラム地区

「イースト・エンドは、停滞的な貧困と絶望の、失業中には飢餓の、就業者には肉体的・精神的堕落の、絶えずひろがっていく泥沼である」（エンゲルス）

②貧困観

社会調査→貧困と労働のあり方が結びついていることを指摘した。
貧困＝働く貧困層の問題
→働いても貧困→失業問題／低賃金問題　→　社会的な貧困　≠　自己責任
→貧困観の旋回＝労働問題：政府や労働運動が解決すべき課題

２　労働組合の組織形態の転換
＊日本における今日的課題




**（１）形態転換論**

①労働者類型論
◇労働者の二分法
１．クラフツ・マン
手工的熟練をもち社会的にも尊敬される労働者
２．レイバラー（labourer）：一般労働者
◇二つの労働者類型を基盤にした労働組合の併存
職業別組合と一般組合
★今日の日本：年功型労働者⇔非年功型労働者

②労働組合の形態（組織と機能）
労働組合の組織形態は労働者類型を基盤にする
＊日本：企業別組合と年功型の従業員

③主体の意識性（主体的努力）
古い労働組合幹部の保守性　⇔　新しい労働組合活動家の意識性

**（２）職業別組合の保守性**

◇クラフト・ユニオンの幹部
「プロレタリアのくず」「浮浪人」とよばれ、増大しつつあった　不熟練労働者にけっして手をさしのべることはなかった。
◇エンゲルス（1885 年）
「産業のすばらしい高揚はけっして組合員となれない労働者の一階級を、うみだしている」。
「ばか者ども（the fools）は社会を自分に合わせて改革しようとはするが、社会の発展に合わせて自分を改革しようとは思わない」。「因襲的な迷信にへばりつき」、「特権的労働者（privileged workers）のふるまい」をしている。

**（３）新労働組合主義者（ニュー･ユニオニスト）――戦闘的活動家集団**

①政策制度闘争
・失業にたいする解決策…雇用確保
――→　八時間労働制の要求→立法化→議会闘争→全労働者の支持

②活動家集団
・職業別組合の「自助の運動」への批判
・これまでの労働組合運動に疑問をもち始めていた若い活動家に影響
・ニュー・ユニオニスト→イースト・エンドの失業労働者への働きかけ
・一八八五年には、毎週開いていた日曜集会がだんだんと膨らんでいき、数万人の規模に
・イースト・エンドにおける不熟練労働者
これまで労働組合は、「彼らとほとんど共通するものをもっていない貴族的な団体」と。しかし「大軍にとっては、この新しい十字軍は、解放の福音のようにひびいた」。（ウエッブ）

## *３．ロンドンドックの大ストライキ*

●マッチ女工、ガス労働者のストライキ――→大ストライキへ

**（１）ストライキの呼びかけ**

◇反労働組合
初めのうち、群衆は、彼らに侮辱的な言葉や屑、石をなげつけ、経営者や請負人は、ヤジを飛ばし妨害する者たちを雇った。「貧困でうちのめされ、意気消沈した港湾労働者の間での胸のはりさけるような努力と組織化の何ヵ月」。
◇労働者間競争
港湾会社の門→群衆が殺到→監督労働者のボックス
→労働者の選択→チケットを→ゲートを通過

し、仕事にありつく。そうでない者は家に引き返す。・家に戻った者→貧困な生活

◇エンゲルス

「絶望しきって冴えない大群が、毎朝開門のさいには、労働者の雇い入れの人のところへ先を争って出頭するため、文字どおり合戦を演じる」。「この打ちひしがれた、まったき破滅に向かってただよっている人々の群のためには、ドックの入口のそばにダンテの次のことばを書き込むことができるだろう、これを入るものはいっさいの望みを捨てよ！」（エンゲルス、

（2）ストライキ

①要求

◇１時間５ペンスから６ペンスへの賃上げ　◇１日最低４時間の雇用確保

◇出来高制と請負制度の廃止など

②義援金

・ストライキ基金（4 万 6500 ポンド）／管理→イリエナ・マルクス

・義援金：オーストラリアから 3 万ポンド、アメリカ、ドイツ、フランス、ベルギーなど

③ピケットライン

◇ 8 月 13 日：ストライキは、1 万 6000 人を動員し、昼夜をとわず、50 マイル約 80 キロメートル）にわたるピケットをはってつづけられた。→世界最大の貿易港は完全に麻痺

◇熟練労働者の沖仲仕やはしけ船頭、船員の各組合もストライキに合流

ロンドン市の中心地・シティへ向けて行進。白い麦わら帽子をかぶったバーンズが先頭に立った。ぼろをまとった貧民だけでなく、長い緋色の服にピンクの長靴下、ビロードの帽子といったまるで盛装した狩人のような、はしけ船頭の一団もいた。まなじりを決した一糸乱れぬ５列縦隊の行進に世論はわいた。参加者は１万人におよんだ。

④ストライキの勝利

◇エンゲルス

「『新組合運動』のすなわち大部分の『不熟練』労働者の組織の発祥地となった」この「イースト・エンドの目ざめこそ、この世紀末最大の、最も実りゆたかなできごとの一つ」（全集 22 巻、284 頁）であった、「私は命あってそれに出あったことを誇らしく、またうれしく思う。マルクスが生きて、これを目にすることができたなら！」（全集 21 巻、385 頁）

◇マルクス

「もっとも劣悪な賃金をもらっている労働者層」に「注意ぶかく、心をくばらなければならない」、「労働組合は、その目標が狭量な、利己的なものではけっして」ならない（「労働組合論」47 頁）

## *４．活動家集団*

①活動家の重要性（意識性）

労働組合＝自発的結社（自分の意思で出入り自由）→“意識性の階梯”

◇組合幹部（ユニオン・リーダー）

◇活動家集団（アクティビスト）

◇一般組合員（ランク・アンド・ファイル）

②既存の古い労働運動に対抗する自発的意思を持った活動家集団

◇エレノア・マルクスにあてたエンゲルスの手紙

「ドック・ストライキでのあなたの活動がうらやましい」。「私は、この活動にくわわることのできる人たちを再度うらやむ」。→老エンゲルスの参加希望

③反貧困のユニオン運動：新労働組合主義者と旧労働組合主義者との論争

◇旧組合主義者の批判

「調停や仲裁を否認する」／「立法や国家による救済にたよる」／運動の方法：音楽バンドや旗、帽子、シンボルなどをもちいたデモンストレーションに頼っている

◇新組合主義者の反論

「『新』と『旧』との真の違いは、この国から貧困を一掃することがユニオニストの仕事だということを、われわれは認識しているが、『旧』は認識していないというところにある」

（Torr、1971）。

この記録の編者：「イギリス労働者階級の歴史に残るもっとも偉大な記録の一つ」。

### *５．一般労働組合の組織と機能*

**（１）労働組合の機能**

③労働条件規制の社会改革

◇国家による労働市場規制

◇生活の保障

**（２）一般労働組合の組織**

トレイド･グループ

＊今日の日本

◇業種別職種別ユニオン＝業種別部会

トレード・グループ

◇一般労働組合へ

**【トレイド･グループ】**

第3表　運輸・一般労働者組合のトレイド・グループ別組合員数の変化

| トレイド･グループ | 1928年 | 1938年 | 1942年 | 1966年 | 1972年 | 1980年 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ドック | 96,000 | 88,000 | 80,000 | 56,000 | | |
| 水路 | 8,000 | 8,000 | 8,000 | 16,000 | | |
| ドック・水路 | | | | | 58,000 | 45,000 |
| 管理・事務・監督 | 5,000 | 9,000 | 17,000 | 62,000 | | |
| 事務･技術･監督職組合 | | | | | 93,000 | 147,000 |
| 道路旅客輸送 | 79,000 | 151,000 | 170,000 | 181,000 | 161,000 | 129,000 |
| 道路貨物輸送 | 37,000 | 80,000 | 98,000 | 219,000 | 208,000 | 208,000 |
| 一　般 | 68,000 | 171,000 | 278,000 | 338,000 | 217,000 | 238,000 |
| 動　力 | 20,000 | 29,000 | 38,000 | 41,000 | | |
| 金属・機械・化学 | | 96,000 | 400,000 | | | |
| 化学・ゴム | | | | 138,000 | 129,000 | 125,000 |
| 機　械 | | | | 269,000 | | |
| 機械・動力 | | | | | 256,000 | 241,000 |
| 建築・建設・土木 | | 32,000 | 40,000 | 53,000 | 69,000 | 350,000 |
| 政府関係 | | | | 58,000 | | |
| 自治体関係 | | | | 44,000 | | |
| 公務・航空運輸 | | | | | 156,000 | 189,000 |
| 農　業 | | | | 13,000 | | |
| 食料・飲料・タバコ | | | | | 181,000 | 209,000 |
| 自動車 | | | | 176,000 | 218,000 | 169,000 |
| 合　計 | 313,000 | 664,000 | 1,129,000 | 1,664,000 | 1,746,000 | 2,050,000 |

トレイド･グループ
ドック
水路
ドック・水路
管理・事務・監督
事務･技術･監督職組合
道路旅客輸送
道路貨物輸送
一　般
動　力
金属・機械・化学
化学・ゴム
機　械
機械・動力
建築・建設・土木
政府関係
自治体関係
公務・航空運輸
農　業
食料・飲料・タバコ
自動車

## Ⅳ アメリカにおける産業別労働組合の確立

### *１．アメリカにおける労働運動の条件*

**（１）職業別労働組合の基盤の不安定性**

機械化…西部開拓：農業労働力→労働力不足→機械化の進展

→　職業別労働組合の基盤の不安定性

**（２）職業別労働組合の保守性**

◆「旧移民」＝熟練労働者

フロンティア（西部開拓）消滅前に移住していきた者＝「旧移民」。一八九〇年には終了。

◆「新移民」＝不熟練労働者・半熟練労働者

・経営側は、「新移民」を大量生産工場に雇い入れる

・職業別組合にたいするストライキ破りとしても活用

→　職業別労働の排他性性への固執

職業別組合を支える技術的な基盤が掘り崩されたにもかかわらず、その組織的な閉鎖性を強固なものにした。

### *２．労働騎士団（The Knights of Labor）：1869 年*

**（１）アメリカ労働運動の二つの流れ**

①職業別労働組合のＡＦＬの流れ…ＡＦＬは長期に存続

②不熟練・半熟練の労働者を組織化する労働組合の流れ

対抗する「外部構築」の労働組合

・労働騎士団とＩＷＷは崩壊

・この戦闘的なユニオニズムの伝統は生きつづけ、ＣＩＯとして結実する

**（２）労働騎士団と八時間労働制の運動**

①労働騎士団の運動

◇自由時間の渇望

・認めた工場→「八時間靴」／「八時間煙草」

②ヘイマーケット事件（1886 年 5 月 4 日）──→メーデーの起源

ヘイマーケット広場で一二〇〇人が参加して集会。

武装警察隊と対峙。突然ダイナマイトが。警官側 7 名、労働者側 4 名の死者。

アナーキストの 4 名が絞首刑。

◇これを契機に労働組合弾圧→労働騎士団の衰退

## *3 職業別労働組合（ＡＦＬ）の確立：1886 年*

アメリカ労働総同盟（ＡＦＬ、American Federation of Labor）／サミエル・ゴンバース

**排他性と戦闘性をもつ**

◇排他性…結成時・二五万人の組合員。

黒人や移民、女性、不熟練労働者を排除する閉鎖的な労働組合

◇戦闘性

自律的な結束と共済制度だけでなく、ストライキと団体交渉を闘争の基本とした。

４ 大量生産方式（フォーディズム）と新しい労働者類型

**（１）クラフト生産から大量生産へ（世紀転換期）**

| 年 | T型モデルの価格の動き(ドル) | 販売数量(台) | 全米の自動車販売数量(台) | T型モデルの市場占拠率(%) |
|---|---|---|---|---|
| 1909 | 950 | 12,000 | 124,000 | 9.7 |
| 1911 | 690 | 40,000 | 199,000 | 20.1 |
| 1913 | 550 | 182,000 | 462,000 | 39.4 |
| 1915 | 440 | 342,000 | 896,000 | 38.2 |
| 1917 | 450 | 741,000 | 1,746,000 | 42.4 |
| 1919 | 525 | 664,000 | 1,658,000 | 40.0 |
| 1921 | 355 | 845,000 | 1,518,000 | 55.7 |
| 1923 | 295 | 1,669,000 | 3,625,000 | 46.0 |
| 1925 | 290 | 1,495,000 | 3,735,000 | 40.0 |

①間接的労務管理から直接的労務管理へ

・企業に直接に雇用

・多くは企業に常用雇用

②大量生産がアメリカで先行

・都市の労働力不足

・一九世紀半ばには小銃の大量生産工場／ミシンの生産も工業化

・一八九〇年代から大量生産方式が本格化

**（２）テーラー主義（科学的管理法）**

職業別組合の基盤だったクラフト・スキルを徹底的に解体

①熟練工の「多能的熟練」を労働を細分化＝単純な作業の集まりに

②各作業の方法を定型化

③詳細な指図票＝マニュアル

労働は細分化された単純な作業をくり返しおこなう労苦に。

労働者は無味乾燥な労働に縛りつけられることになった。

**（３）フォード主義**

◇ベルトコンベアにのせる。

◇フォーディズム：大量生産ー大量消費ー大量資源消費

**（４）「構想と実行の分離」**

◇「人間を労働能力の点で動物よりも優ったものにしている本質的な特徴は、実行が、なされようとしていることの構想と結びついているところにある」

◇この二つを引き裂いた「労働過程の非人間化」こそ「科学的管理のかなめをなすもの」（ブレイヴァマン）

**（５）「半熟練」労働者の類型**

<u>大量生産方式と科学的管理法→新しい労働組合が登場する土台</u>

①職種（トレード）を分解し、職務（ジョブ）へ

職業別組合の基盤を解体

②職務の担い手が半熟練工

◇単一の職務（one job）を、決められた時間で、繰り返し作業をする労働者

◇スキル＝一定期間の訓練は必要だが、その後はすぐに仕事をこなすことができるレベル

③代替可能性と労働組合

◇大量の半熟練工の労働市場

──→労働力の全面的な代替可能性＝労働者間競争を新しい段階

産業ごとの労働市場を組織範囲とする労働組合＝産業別労働組合を必然

５．ＩWWの台頭：1905 年

ＩWW（世界産業労働者組合 Industrial Workers of the World）

**（６）「ワン・ビッグ・ユニオン」**

①「一大組合」（One Big Union）：ＩWWのスローガン

職業や熟練、国籍、人種、性別の区別なく、一つの中央集権化された組織に結集するという組合思想。

これまで既存の組合から排除されていた黒人や、英語のわからないイタリア人などの新移民、そして始めて組織化の対象になった日本人などのアジア系、これらすべての人種に、労働組合の門戸が開かれた。最下層の労働者を組織化

②ＩWW組合員：「ウォブリーズ」（Wobblies）

しだいに全国的に知られるようになった。
◇西部：ビート畑やレタス畑、果樹園などで働く農業労働者、太平洋岸の森林地帯の伐採の作業に従事する林業労働者、鉱夫やカーボーイ、沖仲仕などだ。
◇東部：大量生産工場で働く移民の半熟練・不熟練労働者を組織した。

**（７）ローレンスの闘い**

◇ 1912 年、マサチュセッツ州ボストン郊外のローレンス市の繊維工場
・1000 人のストライキは、隣接する繊維工場の労働者にも波及し、2 万人に達した。
・アイルランドやイタリア、ロシヤ、ポーランドなどから移民してきた不熟練労働者
◇腕組みしたままのストライキ
　　州兵の銃剣や警察の警棒の前で労働者は非暴力に徹した。ＩWW「われわれは“腕組みしたまま”で州兵や警官を武装解除させることができる」

**（８）ジョー・ヒルの悲劇とＩWWの衰退**

①ジョー・ヒルの逮捕（スウェーデン人の移民）
WWのシンガー・ソングライター：「牧師と奴隷」など
◇一九一四年一月、ユタ州のソルト・レーク：殺人容疑
②ドント・モーン　オルガナイズ
死刑が宣告：「でっち上げ」
◇ＩWWの指導者ビル・ヘイウッドへの打電…アメリカ労働運動史上もっとも有名な文章「さよなら、ビル。ぼくはきっすいの反逆者として死に臨む。ぼくの死を嘆いて時間を無駄にするな。組織せよ」。
　──→「嘆くな、組織せよ！（ドント・モーン　オルガナイズ）」はその後のアメリカ労働運動の標語になった。
◇ジョー・ヒルの精神→ウディ・ガスリー→ピート・シーガー
　　→ボブ・ディラン／ジョン・バエズ
③ＩWWの衰退

## *６．「ノー・ユニオンの時代」*

**（１）アンチ・ユニオニズム（労働組合撲滅の政策）**

①「黄犬契約」（yellow dog contract）
入社後に労働組合に加入しないことを誓約させ、それを条件に雇い入れる契約
②「ブラックリスト」（blacklist）
組合活動家や組合員の浸透を防ぐために、彼らの名簿を作成し、各企業に配布
③「ブラック・ジャク」（black jack）
労働組合オルグに対する黒い皮の袋に砂をつめてた棍棒
④ 1920 年代：「組織労働者の凋落」／「ノー・ユニオンの時代」→組合員の激減

**（２）労働者の企業内統合（厚生資本主義）**

①福利厚生制度
②施設やサービスの援助政策

**（３）会社組合（company union）**

①会社組合の特徴
◇企業内の従業員の代表による会社への苦情処理機関
◇福利厚生施策の運営の担い手
②狙い：企業内統合・分断
◇全従業員
ＡＦＬが排除していた不熟練労働者や黒人労働者をも含む、企業内の従業員のすべてを組織
　──→一九二八年は組織労働者のうちの四四・五％を占める

## *７．ＣＩＯの勝利：1938 年*

**（１）ニューディール政策**

世界大恐慌：一九二九年～：アメリカ資本主義の危機
① 1932 年の大統領選挙：民主党のフランクリン・Ｄ・ルーズベルト

就任すると：三五年には労働立法や社会保障法などを成立
②ワグナー法＝労働者の団結権、団体交渉権、ストライキ権を確認

**（２）外部構築論**

①「労働組合の南北戦争（Labor's Civil War）」
◇ＡＦＬ内部：職業別組合＋産業別組合
──→産業別労働組合が産業別組織委員会（ＣＩＯ）を結成
◇ＣＩＯとＡＦＬの対立
──→ 1938 年：ＣＩＯはＡＦＬから分離、ナショナル・センターとして確立
産業別組合会議（Congress for Industrial Organizatons,CIO）
②「二重組合主義」（dual unionism）…一つの産業のなかで二つの組合が対抗する状況
③路線対立
◇「内部からの切り崩し」（boring from within）
職業別組合のＡＦＬを克服するには、ＡＦＬの内部から改革していく
◇「外からの粉砕」（smashing from without）
ＡＦＬとはかかわりなくその外に労働組合を構築していく

**（３）自動車産業での産業別組合の確立**

自動車産業：一九二〇年代半ばには経営側にほぼ完全に支配。
会社組合もない…デトロイトはオルガナイザーの「墓場」
①ＵＡＷ・ＣＩＯ：1935 年
二万六〇〇〇人の組合員によって全米自動車労働組合を結成、
翌三六年、ＡＦＬを脱退してＣＩＯに加入
◇組織化の対象はビックスリー（ネラル・モーターズ、フォード、クライスラー）
②ＧＭのストライキ
・一九三六年一二月：ＧＭのオハイオ州クリーブランドとミシガン州の工場で
・ＵＡＷは組合の承認と団体交渉を。ＧＭ側が拒否。長期の争議に。
③「座りこみ」（sit down）ストライキ
◇ピケットラインによって労働者を工場に入れないストライキではない。
◇バリケードを築き工場を占拠するやり方
──→暴力的なスト破りを防ぐ。
経営側によるストライキの排除＝経営者の工場や機械の破壊につながる
④長期争議…四四日間、二〇〇〇人の労働者が寝起きをともに──→勝利
自動車産業における産業別組合の確立
⑤欧米の運動にみる「外部構築」論

## Ⅴ　日本の労働組合改革の道

### *１．流動的労働市場の形成と企業別組合*

①非年功型労働者という新しい労働者類型の登場＝下層労働市場の形成
──→未組織労働者（無権利、低賃金、過酷な労働）
②年功賃金・終身雇用制を基盤とする企業別組合の対応不能

### *２．欧米に学び「本当の労働組合」の創造*

（１）欧米の道
【アメリカ】
職業別組合（ＡＦＬ）のなかから産業別組合（ＣＩＯ）が離脱→産業別組合の分離
──→ＡＦＬの内部改革による産業別組合化──→ＡＦＬ・ＣＩＯの結成
【イギリス】
職業別組合の外部に一般労働組合を結成。職業別組合が産業別組合に内部改革。
（２）日本の企業別組合改革の道
①企業別組合の外部に業種別ユニオン（業種別部会）を結成
──→合流して一般労働組合を結成──→企業別組合と一般組合の両立
──→企業別組合の業種別再編──→一般組合への吸収
②労働組合改革運動の担い手
活動家→活動家集団→イニシアチブ・グループ